

# SSKS 風の子便り

ひとりぼっちの障害者をなくそう

ガ  
オ  
〜  
!



ガ  
オ  
〜  
!



## 目次

- ☆高浜祭り報告 . . . . . 2
- ☆夏期営業報告 . . . . . 3
- ☆追悼文1 . . . . . 4
- ☆追悼文2 . . . . . 5
- ☆虫めがね1 . . . . . 6
- ☆虫めがね2・学習会報告 . . . . . 7
- ☆暑気払い . . . . . 8
- ☆実習所報告・スケジュール . . . . . 9
- ☆小野塚連載 . . . . . 10
- ☆太田連載・寄付のお礼 . . . . . 11
- ☆編集後記 . . . . . 12



# 巻頭文

今年の夏は例年にない猛暑続きで、流行に敏感な僕は夏バテしたままずっと夏を過ごしそうです。この号が出る頃には、暑さも少しは治まってくれるでしょうか（無理っぽいけど）。

小野塚 航

## 高浜祭り報告

良いお天気の中、高浜祭りに参加させて頂きました。A・Bの二班に分かれ、B班になりました。風の子が担当した売り物はドリンクと焼きそばでした。私が声を張り上げたら沢山売り捌けました。この子供さん達がやるガンマンゲームを楽しく観させてもらいました。暑い中皆で祭りを頑張りました。

松本 成子



今回の高浜祭りはかなりの炎天下での開催となりました。今回も実習生として明学生さん2人に加わって頂きました。風の子は飲み物と焼きそば（既にパック入れられた）の配布を担当しました。かなりの暑さ故か飲料は開始直後からかなりの早さで大勢の客が来ましたが、焼きそばは対照的に全く来ませんでした。他の食べ物は、素麺が常に直射の当たるところにカップに入れられて用意されていた物を食べた所為か、麺もつゆも生温かったのが残念です。この点は出来れば改良して欲しいです。暑さからなのか売れ行き（在庫）からなのか、終了予定時間よりも30分も早く終わってしまった為、殆どの物を食べることが出来ませんでした。今後祭り開催に当たり希望する事は、アルコール以外の飲み物の種類及び数を増やして欲しいです。

祭り終了後に30分程時間が空いたので、2班に分かれトランプをして遊びました。

田村 亮彦



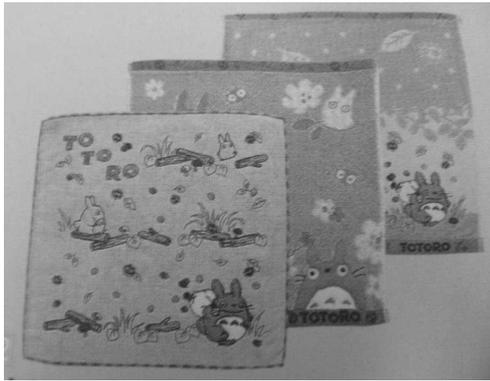
夏季商品の売り上げ報告です

売上金額	・・・・・	二十七万四千四百三十五円
売上総数	・・・・・	百九十九品

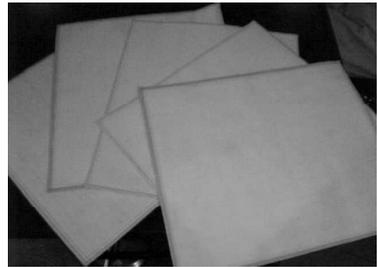
左記に載せているのは、  
 売上数ベスト5です。

（風の子オリジナル  
 +Tシャツ・タオル）

一位 ・・・三十四組  
 とりのトトロ ミニタオルセット  
 〈小道・ぷつくり〉



二位 ・・・十五組  
 きょうされんふきん（五枚組）



三位 ・・・十一品  
 緑茶石けん 美緑茶 80g 泡立てネット付



同率四位 ・・・九品  
 トトロお昼寝枕（くぬぎ）（ブラウン）



オリーブ美容石けん 90g



やぶきた茶



皆様お買い上げ頂き  
 有り難うございました



## 追悼文

金田潤坤さんのご逝去に謹んで哀悼の意を表します。はなむけとして、散文をおくりします。

## 「漢振り（おとこぶり）」

金田さんははにかみ屋さんだった。女子学生のボランテニアが「金田さん」と声をかけるとプイと反対の方を向いて、そちらに回るとまたその反対の方を向いて・・・でも風の子は好きだった。頑固な金田さんのコミュニケーションは、顔の前で手を振って「ノー」、指で丸印が「OK」サインだった。「OK」サインは素敵な笑顔付きだった。旅行の時だったか、疲れて横になっている僕の背中を手のひらのかわりに手の甲で撫でてくれた。

そんな金田さんの遺してくれた思い出に「漢振り（おとこぶり）」のエピソードがある。

それは、風の子が週2日の通所活動をしていた昭和五六年ごろの時代だった。代々木にあるオリンピック記念青少年総合センターで、合宿をした。

日中のミーティングを終えて、宿舎の一部屋に集まって、恒例の秘密の酒盛りをしていた。

金田さんは、しゃべれないけどニコニコして、ベッド二つを寄せ合わせた上にトンビ座りして、大好きな日本酒を飲んでた。

ワイジーからきた車いす障害者のビリーは、大きな体を曲げて、金田さんが座るベッドの脇にちよこんと腰掛けていた。

ビリーは、体がとても大きいけど社交的で、人氣者だった。英語が苦手なボランテニアの女子学生と言語障害のあるカタコト英語とカタコト日本語による会話にならない会話で盛り上げていた。そのうち、ふざけて女学生の手を引き寄せ、キスしようとした。というか、キスする振りで収まるつもりだったのだと思うのだが。あわよくば、可愛いそのほっぺくらいには・・・「いやー」という悲鳴というより歓声があったとき。

金田さんが、後ろからビリーをど突いた。ビリーは、ベッドから滑り落ちて大きな音を立てて尻餅をついた。突然の暴力にビリーは怒った。

ベッドの枠に片手でつかまりゆれながら立ち上がった。大きな体のさらに上に大きなにぎりこぶしを振り上げて、金田さんを睨みつけた。周りにいた僕達は動けなかったところか。

金田さんは逃げなかった。ビリーの方に向き直り、その上体を前に出し、膝立ちしようと腰を浮かせ揺れるベッドのうえなので手が離せず

四つ這いでゆれながらそびえるビリーに顔を向けていた。金田さんのほほは上気して紅くなり、眼はギョッとつぶり

口は一文字に結んで振り下ろされるだろうこぶしを受け止めようとしていた

ビリーは金田さんの姿にとまどいにぎりこぶしをふりあげたままだった。時間が止まったようだったやがて

ビリーはため息をついてベッドに腰掛けなおし金田さんの肩を撫でた。そして英語？で何か言った。「お前は漢（おとこ）だ」と、僕には聞こえなかった。

金田さんは「フー」と息を吐き腰をおとして、ビリーにニコリとしたほんの一瞬の出来事だった。二人の漢（おとこ）を見た。

金田さんのご逝去を聞いた風の子の障害者のひとりが言った。

「苦労して生きてきて、悔しいこと苦しいことが多くて長く生き続けることが幸せと言えるのかしらぼっくり死ぬことは惜しくもなんでもない金田さんにはやつと死ねて良かったよね」と言っただけだよ。

同じ障害者だから言える気持ちだろう。僕はボランテニアだから、僕の中の金田さんを忘れたくない。金田さんがいました。ということのみなの心に留めたい。

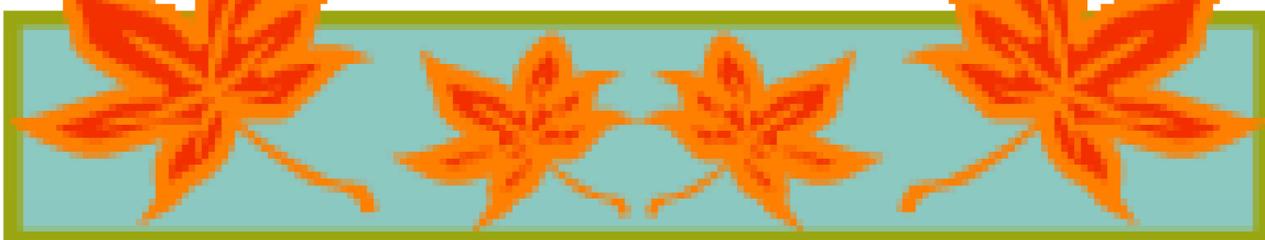
合掌

井出 義文



風の子会を三十年以上に渡り、利用者としてみんなを引っ張ってきてくれた金田潤坤さんが、八月十七日にお亡くなりになりました。謹んでご冥福を申し上げます。僕との思い出は、僕が工房で作業を一緒にしていた頃の事を思い出します。化粧品会社のDHCの内職をしたり、牛乳パックのラベル剥はがしなどを、行いました。僕の住んでるアパートと、金田さんが進んでいた、老人ホームが近所だったので送迎が一緒に仲良くさせてもらいました。もっとお話をしたかったです。本当に風の子にとって、大切な方を失った気持ちです。

田中 聡



### 虫眼鏡

## テーマ・『好きな言葉』

僕の好きな言葉とは「命」という言葉です。人の命や動物の命、植物の命などがあげられますが、それぞれがとも重要視をしているのではないかと  
 思います。植物は綺麗なお花を咲かせて、酸素を送る役割をして、動物たちを癒し人間までもが癒される自然の命の尊さを改めて感じています。人間社会でも、赤ん坊の命を殺す親がいたり、百歳以上高齢者が放置されて死亡届を提出してないだとか、行方不明とかだ  
 ということを聞くと、命の尊さや有り難みが分かっていいるのかと思ってしまう  
 ．．．．．皆さんも命について考えてみ

田中 聡



虫めがね く 笑顔と笑顔の間の話 く

「先輩の好きな言葉ってなんですか？」屈託のない笑顔でKは言う。「うーん、そうだなあ、『万物は流転する』かな」レモンドロップを口に頬張りながら僕は答える。きよとんとした顔をしながらKが「それって、どういう意味ですか？」と訊くので、僕はちよっと困ってしまふ。

煙草の煙が欲しいけれど、ここは禁煙席なので耐えなければならぬ。ドロップを口の中で転がしながら僕は考えてみる。「世界は絶えず変化していく、という感じなのかな。大昔の哲学者が言っていた言葉だよ」わかりやすく言おうとすると、本質的な意味が少しずれてしまふのではないかという懸念が頭の隅を掠めたけれど、それをなんとかかわしながらドロップを舐め続ける。

「．．．もう少し、わかりやすいのないですかあ？」きらきら輝く瞳で、まじまじとKが更に尋ねる。本格的に煙草が欲しくなってきた。「．．．うーん、『ケ・セラ・セラ』って知ってる？」やめようとも思うけれど、なかなかやめられない。ニコチン中毒なんて厄介なものだ。頭の上にクエスチョンマークが見えそうなくからは、予想通りのリアクションが返ってくる「聞いたことあるような、ないような．．．」。とりあえず僕はウエイターにペリエを注文する。

テーブルの上に置かれているフォークとスプーンを眺めながら、ペリエが来るのを待っている「スペイン語で“なるようになる”っ

て意味。うーん、もっとわかりやすいほうがいいか．．．」腕を組み顔を上げて、壁にはめ込み式で取り付けられている間接照明に視線を置きながら、頭の中のロジックを更に展開させてみる。

駄目だ。どうにも浮かばない。相手に分かりやすく物事をかみ砕いてしゃべるというところが、生来的に僕は苦手なようだ。グラスに注がれたペリエを一口飲んでから、僕は少し苦笑いを口の端にこぼしながら言った。「ごめん。簡単なフレーズやレトリックが、なかなか出てこなくて．．．あれこれ考えているうちに、最後は結局英語になっちゃった」．．．英語の、なんですか．．．？」照れ笑いと苦笑いを微妙に重ねあわせた感じの笑みを右目の端に少しだけこぼしながらKは訊く。

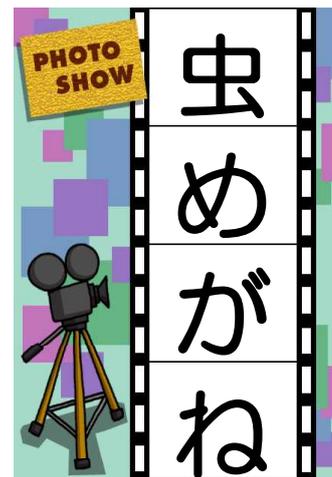
「Where, there is a will, there is a way.

小野塚 航



私は、やはり「ありがとう」という感謝する言葉が好きです、  
何故かというと幼い頃から重度障害を背負っている為、身の回りの事や食事など全介助です。  
だから介護して貰ったら自然に「有難うございました！」の一言が出て来るのです。  
また、相手になにかをあげたり自分が何かを貰った時は必ず「ありがとう」を言います。  
だからその言葉が大好きです。

幸 高史



八月四日「怖い話・スイカ割り」  
職員さんが持ち回りで怖い話をしました。一番怖かったのが、丸山さんの話で効果音が怖かったです。  
その後は、スイカ割りならぬ風船割りをしました。新聞紙を棒代わりに丸めて使いました。風船が大きな音で破裂するので、みんな驚いてましたが、良いストレス解消になりました。

十一日【料理】  
みんなでクリームあんみつを作って食べました。僕はフルーツと寒天が好きじゃないので、あんことアイスクリームだけ食べました。とっても美味しかったです。

二十五日「テーブルゲーム」  
皆でやりたい事を提案して、トラフ・オセロ・人生ゲームの三種四班に分かれて計二時間遊びました。僕は大体はオセロに費していました。が、終わり間際にはトラフに移り、七並べをやりました。

田中 聡  
田村 亮彦



# 暑気払い報告 (八月七日)

今回の暑気払いは失敗・想定外の事ばかりでした。今回企画したプログラム（ゲーム）の六つの内三つが初めての試みだったので、反応や難易度・掛かる時間に不安が有りました。特に反応や掛かった時間は初物だから当たり前といえは当たり前なのですが、想定外ばかりでした。まあ企画した側としても若干試しの為の今回でしたので、今回の出来等を踏まえて、今後に活かしたいです。

田村 亮彦



司会の田村さん、田中さんお疲れ様でした。メンバーさん職員の方々を初め、たくさんのボランティアさんが集まり楽しい会となったのではないのでしょうか0(^-^)0



絵を当てるクイズでは、やはり所長の岡本さんの絵が皆さん印象的だったのかなあ・・・と。さすが笑いをとる人ですね！

クイズは田村はさん、難しくて頭を何度悩ませたことかわかりませんよ～。今度はもう少し優しくお願いしますね。

まだまだ暑さは続きますがお体には気をつけて楽しい夏休みをお過ごし下さいませ。

今回はシャッターチャンス逃して

八月七日（土）高浜での恒例の暑気払いがありました。笑い有り涙有り？の四時間でした。担当者の方お疲れ様でした。ボランティアさんも楽しめたのではないのでしょうか。何時もおもうのですが、田村君のクイズは難問過ぎて・・・。絵当てクイズは絵のうまい人、下手な人に分かれるので面白かったです。ひとときではありますが、暑さを忘れることが出来ました。

三木 直人

今年もメンバーの希望により暑気払いが行われる事になりました。準備委員には三名のメンバーと職員が一名選ばれて、出し物を決めたようです。今年も職員の女装があるのかと思っていたら、N君の可愛いメイドさんが一人居ただけでした。イントロクイズをやったり常識クイズをやったりして、楽しい一日を過ごしました。今年の暑気払いは昨年よりも賑やかだったような気がしています。委員の皆さんおつかれ気まです。とても楽しかったです。有り難うございました。

太田 圭子



# 実習所 報告



夏休みや旅行、区民祭りなどに参加し活動しています。ボランティアさんにたくさん来て頂きました。明治学院大学の女の子二人もきていて、旅行のお手伝いをして頂きました。井上さん、岡田さん二人と一緒にありがとう

松本 恵司



仕事は全部楽しい。ビーズでアームバンドやストラップを作っています。その他に、風の子会の会報を折る仕事・箸入れをしました。

北原 明美



## スケジュール

9月4日（土）～5日（日） 風の子一泊旅行  
@那須塩原  
9月15日（水） 総務部  
9月29日（水） 運営委員会  
10月9日（土）～10日（日） 港区民まつり



## わたるのドミトリーライフ

【ドミトリーとは英語のdormitory つまり寮という意味】

### 第30話 途中入寮生について その4 ～ 海、そして星空の下 ～

マリの車のスカイラインで寮を出る。しばらく南下して246号線に入る。どうやら伊豆か熱海あたりを目指すようだ。「いい天気だね」「そうだな」「水着持ってくればよかったかな？」「足をつけるくらいなら、デニムをまくればいいだろ」「・・・そうだね！」後部座席からはオチとサチの明るくさわやかな会話が聞こえる。マリもたまたま会話に入りこみながら運転を続ける。ちょっと息苦しさを感じて助手席の窓を少し開けて、僕はマルボロを深く吸い込んだ。

246から129へ移り、厚木を越えて茅ヶ崎あたりで海岸通りに入ると海が見える。「わあ！ 海だ！」「水平線までくっきり見えるな」「あたしも見たーい！」「おまえは運転に集中しろって」左手に海を眺めながら、国道1号をさらに進む。

海岸沿いの道を走り抜けて、適当な場所を見つけて車を停めて砂浜へと降りる。波際をじゃれながら走り回るオチとサチを眺めながら僕は砂の上に腰を下ろす。「行かなくていいのか？」少し離れたところにぼつんと立っているマリにそう投げかけてみる。水平線の上、はるか遠くを進むタンカーに視線を置いているような感じのマリは「うん、ちょっと休憩」といいながらそこに座りこむ。「なんだかなあ・・・」誰に投げかけた訳でもない言葉を宙へと浮かばせながらマルボロを啜える。何を撮る訳でもなく持ってきたカメラを手に取り、ファインダー越しにマリを眺める。マリの視線の先を追ってみると、そこにはオチとサチがいる。「なんだかなあ」つぶやきながら僕はシャッターを切る。

「せっかく来たんだから、ヅカシさんも海どうっすか？」筋肉質な上半身を惜しげもなくさらけ出しながら、さわやかさを満面に出したような笑顔でオチは言う。そんなオチの健全さに少しあてられながらも僕は彼の手を取り海へと歩く。シーズンにはやや早く、夏休みにもまだ入っていない海はちょっとだけ冷たさを感じたが、焼けつくような夏の陽射しをまぎらわすにはちょうど良かった。「意外と冷てーな」「それが海っすよ」「きゃはは！ ヅカシ、えーい！」サチの背後からの予期せぬ強襲にあい、僕は海中にざぶんと転げる。「ぶはあー、サチ、何すんだ！？」「ははは！ ずぶ濡れヅカシ！」「大丈夫っす。おれ、替えの短パン持ってきてるっす」「ったく・・・」「わーい、おもしろー！」ちらと浜辺を見ると、マリはそんなやりとりを僕のカメラのファインダーから見ていた。

3人がそれぞれに服を濡らしながら海辺で遊び疲れた後、マリの元に寄って服を乾かしながら浜辺に寝転ぶ。ある程度かわいてきた頃合いで車に乗り込みファミレスで軽く食事をとる。腹ごなしを済ませ一服し、また車を走らせる頃にはもう日が暮れかけていた。「ねえ、星を見に行こうよ！」突然サチが言う。「いいっすね。どうっすか？」オチの問いかけを僕が促す「今日の締めくくりとしてはいいんじゃないか」「・・・そうだね」マリも同意し、車は峠道を目指す。

峠道を上がり、街灯もまるでないような山道まで達して、広場を見つけて車を停めて車外に出る。木々のざわめきを除けば静寂に取り囲まれた山の中で、見上げるとそこは満天の星空が上空を覆っていた。「わあ、きれーい！」「まるで星が降ってくるようだ」「あ！ 流れ星！」「え？ どこだよ？」暗闇の中でのオチとサチとのやり取りを耳にしなが、僕は広場に寝転がる。すぐそばにはマリがいる気配がする。「・・・いいのか？」暗闇の中、マリの気配がある方へ投げかける。少しの間を置いてから、その気配の方からマリの声が聞こえる「・・・うん。いいんだ。なんか、いろんなことがわかった気がする。これがいい機会だったのかもしれないってね・・・あたしも、そろそろ気持ちにけじめをつけなきゃね・・・」。意外なほどにマリの声が近かったことと、マリの言葉に二重に驚いた。手を伸ばせば、その手を握ってやれるかもしれない。そんな距離にいなが、僕はその手を握ることもできずに、今にも降ってきそうな星空に向けて手を伸ばすことしかできなかった。

～ すみません、こんなオチで。 31話からは新章です～

## 僕の生い立ち

なぜ僕がこの書き物を書こうと思ったかと言えば、僕の人生を誰かに、知って欲しかったからです。昭和十七年九月十一日に、台東区柳橋で、産声を上げた僕は（もつとも僕は生まれるとすぐは、泣かなかったそうです。）すぐ第二次世界大戦の疎開先の埼玉へ。ここは母の実家だったのです。母の実家、埼玉の祖父と祖母は、僕にとっても優しくしてもらったことを子供ながらに記憶しています。

ここ埼玉で、二、三年暮らした僕は、戦禍がだんだん激しくなってきたため、埼玉から父の実家に近い滋賀県の大津市からさらに、小さな鉄道に二時間半ものつてようやく家に付くという、すごくへんぴな村に引っ越したのです。その村で僕がものすごく美味しかったと感じたものを一つ紹介しておきます。お正月料理の一つですが、椎茸を丸のままゆでて醤油につけ、自分の家の軒下で一ヶ月くらい陰干しにします。おかずが無いときなどは、その椎茸でも結構おかずになります。

料理の話はこれくらいにして、僕が体の、自由が利かないことに気づいたのは、三歳くらいからだと思います。おもちゃを卓袱台から落とすと絶対に拾えなかったことをおぼろげながら覚えています。

太田 稔

## 寄付のお礼

賛助会にご賛同して下さった方  
井出義文様・初子様、阿部祐千様  
ご協力ありがとうございます

# 編集後記

僕の今年の夏休みは、家族と一緒にデイズニーオン・アイスを海に行ったり、江ノ島に行ったり、海の幸を満喫しました。デイズニーオン・アイスでは、ミッキーやミニーなどのキャラクターが氷の上を華麗に舞うところが感動しました。東京デイズニーリゾートへ好きで遊びによく行きますが、夢でも見ているような感じにさせられてしまいます。今回もドリームのような気持ちになりました。江ノ島では、食事とショッピングを楽しんで食べながら、楽しい一日を過ごしました。今年の夏休みも、有意義に過ごすことができました。

タナツキー

僕は、若いときは夏が大好きでした。ところが、今は夏が大嫌いになってしまいました。かといって冬が好きかというと、寒いのはもっと嫌、ところが食べ物は、僕は冬の方がおいしい食べ物が、俄然多い感じがします。それは僕なりに解釈すると、冬の方が手間をかけた材料の方が多いのではないのでしょうか。

太田 稔

三ヶ月以上前の事ですが僕的には偉業(?)なので載せます。六月のスポート大会でやった砲丸投げとソフトボール投げで、自分の過去最高記録と大会記録が、砲丸が七m三十三cm、ソフトが三十一m四十cmだったのです。砲丸は七m十九cmと十五cm及びみせんでしたが、ソフトが三十一m五十五cmと十五cmも更新しました。

記録で見ても単純に凄いのですが、誇れるのはソフトの此の頃の平均記録が二十三mだったのに急に伸ばせたことです。此の様な記録を出しといて国体には出ませんが。

田村 亮彦

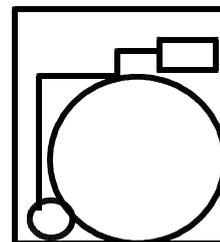
## ひとりぼっちの障害者をなくそう 特定非営利活動法人・風の子会 ~定価40円~

編集人：【高浜生活実習所】  
生活介護、就労継続支援B型

〒108-0075  
東京都港区港南1-1-27 カナルサイド高浜3階  
TEL 03(3474)9674 FAX 03(3474)9213

ブログ：<http://www.kazenokokai.npo-jp.net/>

発行人：障害者団体定期刊行物協会  
東京都世田谷区砦6-26-21



編集者  
太田 久人  
佐田 正圭  
田村 亮彦  
三木 直人  
幸木 史郎  
和栗 頭

太田 野田  
小野 塚  
松田 本

久摩 恵  
代子 司  
航 稔